

町の話題

地域の中で

嶺(田中)城址の散策道を開発

— 嶺町 —

渋川大胡線と藤沢川が交差する地点の北方に見える樹木に覆われた小高い丘に、嶺城址があります。

嶺城は、北条(きたじよう)高広が前橋城の城代になった1563年頃の戦国時代に造られたと伝えられています。この城は、北条家の家老だった田中大式が城代として居城し、その後も田中家によって大切に保存されてきました。このため嶺町では、嶺城を田中城と呼び、親しまれています。

嶺城址は、戦国時代の面影を残す城として、色々な歴史書で紹介されてきました。しかし、嶺城址には、これまで散策道がなかったため訪問者も少ない状況でした。このため、『何とかせねば』との声が多くなり、嶺町自治会と地域の歴史を守りたいと考えるボランティアによって、本丸までの散策道を開

発することになりました。幸い、地権者である田中家のご理解を受け、うっそうと生い茂った雑木や竹を刈り払い、散策道が完成しました。嶺城址は、空堀や主郭(本丸)などの郭が非常に良く保存されており、戦国の昔を偲ぶことが出来る大変貴重な歴史遺産です。



また、散策道は季節の山野草などを楽しむことができる素晴らしい場所です。今年春の芳賀体協ふれあい歩け歩け大会では、コースの一つになりました。多くの方に見ていただきました。まだ行っていない方は一度散策されることをお勧めします。なお、散策の際には嶺城址が私有地であることを理解していただき、植物などの採集は絶対に行わないようにしてください。樹陰の中を歩くと『兵どもが夢の跡』を体感できると思います。皆様と共に戦国の昔を偲ぶ貴重な歴史遺産を大切に保存したいものです。

嶺町 生涯学習奨励員
井上 金治

春夏秋冬

『六曜』と『のし』

高花台一丁目 生涯学習奨励員 鈴木 一

池上彰さんが出演する時事解説番組で『六曜』について説明していました。その中で「六曜は迷信です。」と言っていました。池上さんは「旧暦の各月の一日から順番に割り振っていき、例えば7月1日は先勝から・・・。」と説明していただけたので、もう少し分かり易く説明したいと思います。

病気見舞いに行く時、『のし』の付いた多当袋にお金を入れて行く人がいますが、『のし』には「おめでとうございます。」という意味があります。『のし』の中央にある黄色い線は、干したアワビを長くのした物です。アワビは良く付きますので、「長くお付き合ってください。」という意味もあります。これを使用すると、「おめでとうございます。」と解釈できます。病気と長くお付き合ってください。」と解釈できるので、市販されている『のし』の付いていない多当袋を使用したほうが無難かと思

順番は、大安・赤口・先勝・友引・先負・仏滅と決まっています。どうやって決めるのか、それは簡単です。旧暦の月と日を足して6で割り、割り切れれば大安、1余ると赤口、2余ると先勝、3余ると友引、4余ると先負、5余ると仏滅です。旧暦の8月15日は十五夜ですね。8足す15は23です。23を6で割ると5余りますので仏滅です。十五夜は、毎年必ず仏滅になります。旧暦の2月1日など、6未満になる場合は、足した数

7月の主な行事予定

- 7月18日(水)子育て親子支援講座(芳賀公民館講義室)
- 7月19日(木)芳賀公民館運営推進委員会(芳賀公民館会議室)